

## 県民まちなみ緑化事業 波及効果の事例紹介

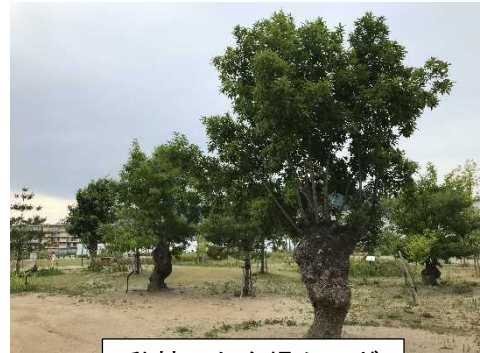
## 事例1 日本一の里山を思い起こさせる人口集中地区内の公園（川西市）

## 1. キセラ川西せせらぎ公園について

- ・ 阪急川西能勢口駅北約 1km の区画整理事業区域内の 2ha の公園
- ・ 公園と隣接するせせらぎ遊歩道の整備計画は、子育て世帯から 60 歳代の市民が 2 年間ワークショップを行ない立案
- ・ 日本一の里山と称される市北部黒川地区の里山の再現を公園のコンセプトとし、そら植物園の西島氏の指導を受けながら同地に自生するエドヒガンザクラや台場クヌギを移植。隣接するせせらぎと一体的に、多様な生物が生息できるような自然環境を再現
- ・ 公園の整備から完成後の維持管理を含め PFI 事業により実施（令和 4 年以降は住民団体の主体的な管理に移行を目指す）



移植したエドヒガンザクラ（中央）



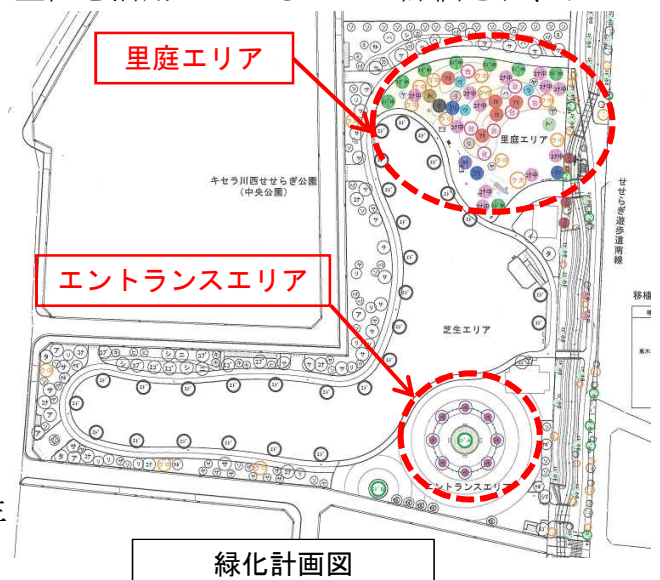
移植した台場クヌギ

## 2. 日本一の里山 川西市黒川地区

- ・ 兵庫県で絶滅が危惧されるエドヒガンザクラや菊炭の原料となる台場クヌギが自生
- ・ 里山とそこに住む人々との関りは平安時代には始まったといわれており、食材や木材等自然資源の供給や人間の消費活動の一環として山林を利用
- ・ 山を 10 区画に分け、年に 1 か所ずつ交代で輪伐。切った年の異なる林がモザイク状の里山景観を形成
- ・ 現在も茶道で使用する菊炭を生産し、今なお里山を活用していることが評価され、日本一の里山と称される。

## 3. キセラ川西せせらぎ公園での事業内容

- ・ 公園のうち、エドヒガンザクラをシンボルツリーとしたエントランスエリア、台場クヌギや里山で自生する樹木を植え里山の再現を図った里庭エリアを県民まちなみ緑化事業で整備
- ・ 高さ 15m のエドヒガンザクラ、高さ 6m の台場クヌギなど計 40 本を黒川地区より移植
- ・ 黒川地区の里山を再現するため、そこで自生する樹種約 100 本を植栽



#### 4. キセラ川西せせらぎ公園の整備により創出された効果

##### (1) 草刈りチームの誕生と管理者による支援

- ・PFI 事業者が行う維持管理とは別に、公園の整備計画を立案した市民が中心となり設立された団体「キセラカフェ」が維持管理や公園活用を検討
- ・キセラカフェ参加者の中からゴミ拾いや草刈りなどを行うメンテナンス部の設立や、芝生エリアでグランドゴルフを行う高齢者、遊びに来た小学生が草刈りチーム等自主的に維持管理を行う主体が誕生
- ・PFI 事業者が草の抜き方や刈ってよい草、刈ってはいけない草をまとめた「防草説明シート」を作成し活動を支援
- ・水やりは井戸水を使用。動力は管理棟の屋根に設置した太陽光発電を活用し、管理者に負担が生じないように計画時から工夫



除草マップ



防草説明シート

##### 市民の公園利用、維持管理活動の取組

キセラカフェ メンテナンス部

グランドゴルフ参加者

その他、公園利用者

活動支援

PFI 事業者

##### (2) 公園の活用状況

- ・近隣住民のみならず、休日には自動車を使い市北部や隣接する宝塚市、池田市から多くの住民が来場し、交流の場となる。
- ・里庭エリアにおいて、穴掘り、泥遊び、木工、冬は火遊びなど子供のやってみいたいという気持ちを尊重し応援する遊び場、プレパークを月に1回程度、市民が開催（参加者100人程度）
- ・公園整備計画に携わったそら植物園西昌氏による里庭エリアの樹木説明会や、プレパーク参加者がせせらぎでの生物観察会を主催するなど、地域の子供が自然に関心を持つイベントを開催
- ・公園内での市民の自主的な活動を PFI 事業者が支援



プレパークの様子



水辺観察会

#### 6. 課題

- ・PFI 事業終了後、市民の主体的な運営体制の構築

## 事例2 地域内遊休地の緑化による地域コミュニティの強化（神戸市北区）

### 1. 惣山の森広場の概要

- ・1980年代に開発された住宅団地内の小学校予定地の一部（約6,000㎡、市教育委員会管理地）
- ・開発当初より未利用。雑草が繁茂し、花粉、害虫に悩まされる状況
- ・管理上の都合から施設され住民の立入ができず、治安上の懸念のあった敷地
- ・平成28年に南側を少年野球等グラウンドとして整備。北側の活用について市教育委員会より自治会に打診
- ・県民まちなみ緑化事業を活用し、地域交流の場として自治会が主体になり緑地を整備

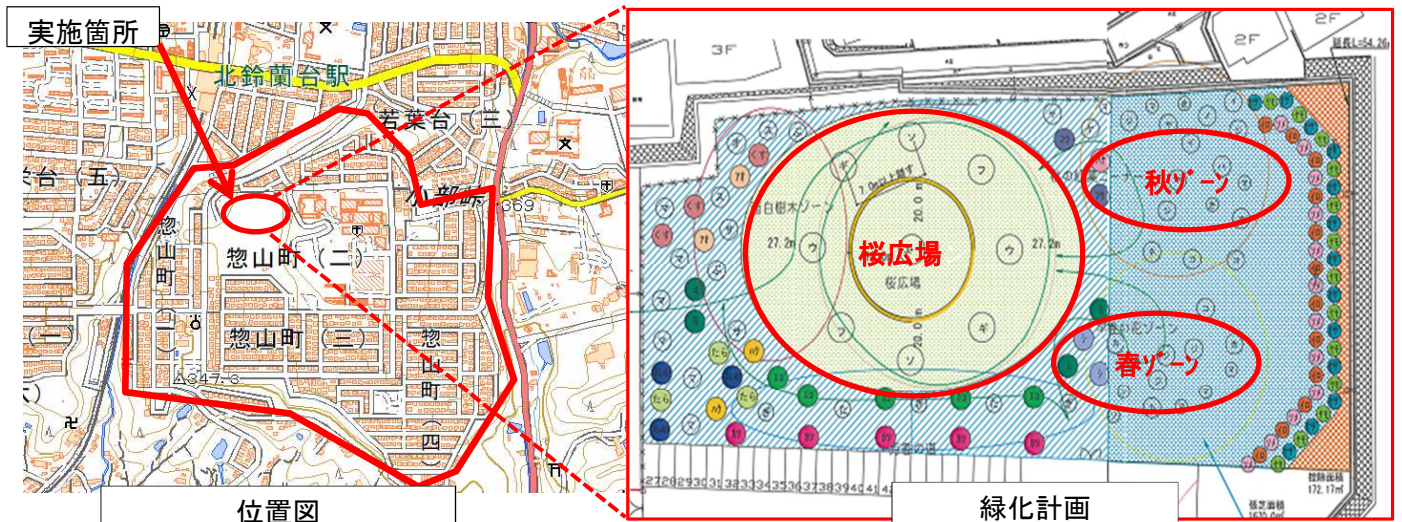


### 2. 惣山町について

- ・神鉄北鈴蘭台駅から徒歩約10分
- ・昭和60年頃より入居が始まった住宅団地
- ・2,500人、950世帯が生活（60歳以上の世帯主が約半数）

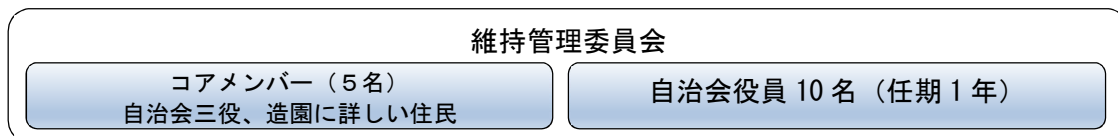
### 3. 緑化事業の概要

- ・平成29～30年の2年間、一般緑化、ひろばの芝生化実施
- ・四季を通じて楽しめるひろばをテーマに、半年間かけて計画を作成（春：桜、秋：モミジの紅葉）
- ・緩やかに起伏を設け、奥行きを感じさせる工夫
- ・植樹祭開催時には、地域住民約100名が参加



#### 4. 維持管理の状況

- ・ 持続的な維持管理実施のため、自治会役員と住民ボランティアからなる維持管理委員会を結成
- ・ 維持管理委員が中心となり、2ヶ月に1回程度、芝刈りや草刈りなどを実施
- ・ スプリンクラーにより夜間30分程度散水



維持管理委員会による草刈りの様子

#### 5. 県民まちなみ緑化事業により創出された効果

##### (1) 緑が持つ本来の効果

- ・ 長期間荒地であった敷地が緑化により景観が改善、それに伴う治安の改善

##### (2) 県民参画により創出された効果

- ・ 植樹祭を契機に世代を超えた地域住民の交流の場として地域の核となりつつある。
- ・ 緑化後、地域内で生じた建築廃材を活用しあずま屋を建築。地域内の住民で建築関係の専門家が集まり協力しながら建築したことにより、新たな住民の参画や住民間のコミュニケーションが促された。
- ・ 地域の高齢者、保育園、子育て世代を中心に多くの住民が来訪し散策したり、運動したりするようになり、健康増進や子育て支援にも寄与している。
- ・ 救急対応を行う病院に隣接しており患者や職員など地域外の住民に対しても、潤い感ややすらぎ感など癒しを創出した。
- ・ 当該緑地に隣接する市が整備した少年野球のグラウンドと併せて教育環境が向上した。

#### 6. 課題

##### (1) 緑化後の維持管理

- ・ 維持管理費用（肥料代、除草代）の確保、造園業者への定期的な維持管理費用の確保

##### (2) 惣山の森広場の利用促進

- ・ 広場入口の増設、広場来場者向け駐車場の整備等、地域住民が来訪しやすい環境整備
- ・ 南側グラウンドとの一体的な管理、施設体制の改善

### 事例3

## 幼児が安心して外遊びのできる広場の創出（豊岡市）

### 1. 子育てひろば整備のきっかけ

- ・豊岡市役所建て替え時、庁舎前に芝生広場を整備
- ・よちよち歩きが始まった幼児が対象の遊具を設置したところ、多く子育て世帯が来場。道路への飛び出し防止のため広場の周りに木製柵で囲み、親が安心して遊ばせられる「子育て広場」として整備
- ・市より、芝生のある子育て広場を整備しないか、合併前の旧5町の住民団体に提案



きっかけとなった市役所前の芝生広場

### 2. 緑化事業の概要

#### (1) 地域の子育てを支援する緑化（竹野子育てひろば）

##### ア 緑化事業の概要

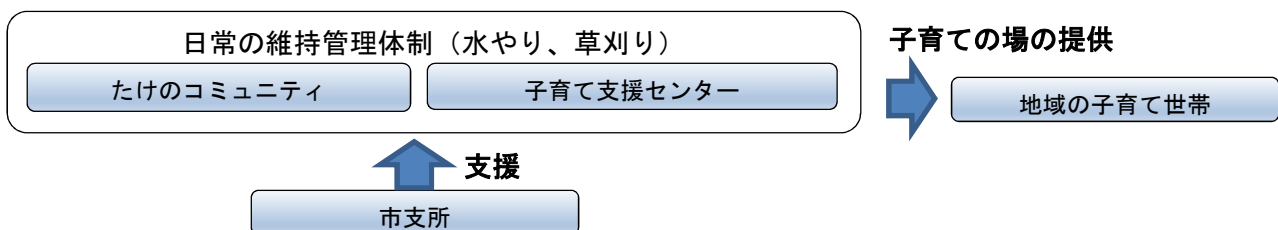
- ・幼児が遊べる公園が無いと、地域団体の「たけのコミュニティ」と子育てセンターが中心となり、芝生化実行委員会を組織し、豊岡市役所竹野支所玄関前を芝生化
- ・専門家講習会において、芝の種類や必要な設備等、植栽後の維持管理にかかる不安を解消し、事業に取り組む
- ・子育て広場には寄贈された遊具とお母さんもくつろげるベンチ、周囲に柵を設け、安心して子供を遊ばせられる「子育てひろばマーク」を表示



子育てひろばマークとお話し会

##### イ 維持管理体制

- ・たけのコミュニティが中心に子育てセンター、支所の職員も毎日水やりを実施。
- ・夏季は2週間に1回程度、コミュニティ職員が草刈りを実施。



##### ウ 緑化により創出された効果

- ・たけのコミュニティや子育て支援センターが子供向けイベントを毎月、広場で開催
- ・子供の遊び場だけでなく、広場を介して地域の子育て世帯の繋がりが出来、特に子育ての悩みや不安に関するお母さんの情報交換の場として機能を担う
- ・たけのコミュニティや子育てセンターの職員も子供を見守っているため、お母さんに一時の寛ぎの場として提供

##### エ 課題

- ・芝生を良好に維持していくため、維持管理方法や追肥の時期など専門家からの助言を要望

## (2) 観光客にも利用される公園の緑化（城崎子育てひろば）

### ア 概要

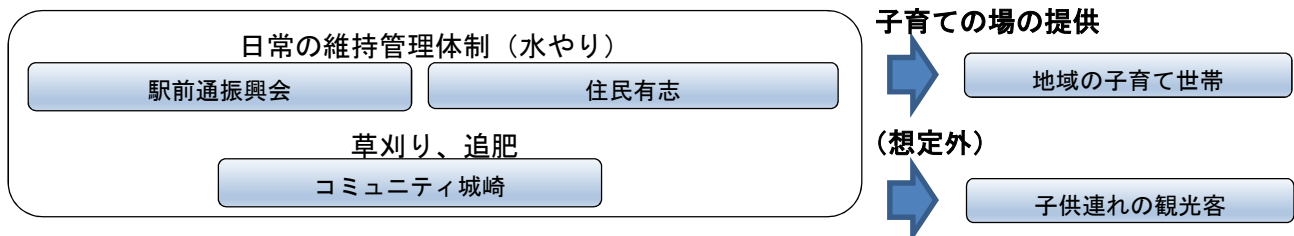
- ・地域の子供たちを青々とした芝生広場で遊ばせたいと、駅前通振興会、コミュニティ城崎が中心となり芝生化実行委員会を設立
- ・JR 城崎温泉駅と温泉街を結ぶ商店街内の城崎駅通り公園を芝生化
- ・公園には休憩所があり、観光客の利用も多い公園



地域で維持する子育てひろば

### イ 維持管理体制

- ・公園の清掃はシルバー人材センター職員が行ない、芝生の水やり、草抜きは実行委員会が実施
- ・水やりは朝夕、1時間かけて駅前通振興会の役員や公園近隣の住民有志が実施。
- ・コミュニティ城崎が同公園で毎週土日に開催する朝市時に、草抜き、提供した肥料で追肥を実施。



### ウ 緑化により創出された効果

- ・公園で遊ぶことのなかった幼児連れの地域の子育て世帯の利用が増加
- ・近隣の認定こども園が園児の散歩、遊び場として毎週利用
- ・幼児、子供連れの観光客が公園を利用。特に冬季は、芝生広場で雪遊び

### エ 芝生化後の状況

- ・芝生化実行委員会に加え、地域住民総出で芝生を植え順調に生育したが、公園奥の遊具に至る経路部分が踏み固められたり、積雪時の踏み固めにより芝生が枯損
- ・道路への飛び出し防止柵を休憩所側にも設けるとともに、隣接地境界沿いにあったブロック塀撤去工事に伴う芝生広場の立ち入り制限により、芝生が復活
- ・芝生の復活を契機に、「子供たちのために芝生を維持したい」という思いが実行委員会、地域住民の間で共有され、城崎美化特区の指定とあわせ、コミュニティ城崎が主体となり毎月末に公園の掃除、芝生の雑草引きを実施

### オ 課題

- ・芝生の生育維持のために雨の少ない夏季や降雪時期に立入制限期間を設けたいが、子供が楽しく遊ぶ姿を見ると躊躇している。
- ・簡易のスプリンクラーを使用し散水するため、水やりに時間と手間を要していること
- ・生育不良の時期があったこともあり芝を伸ばしているが、芝刈りをするタイミングや刈り込み長さがわからず、維持管理に係る専門家の助言を要望
- ・芝を刈り込み過ぎないように、芝刈り機購入費の助成